

クラス担任のための Career Guidance

2016 >> VOL.31

「キャリアガイダンス 特別編集」



新学年のスタート

新しい学年の始まりは、これからのクラスづくりのためにも重要な時期。そこで、都立山崎高校の先生たちが実践しているさまざまな工夫を教えてくださいました。

取材文／清水由佳（ライター・キャリアカウンセラー）

あの手ごこの手で、一体感を高めていく

自己紹介や名前覚えゲーム、席替えなど、小さな積み重ねが人間関係をつくる

東京都立山崎高校は、2016年4月から東京都の新教科となる「人間と社会」の試行実施校として、昨年度、1学年全員で「人間関係をつくる」の単元に取り組んだ。試行版のテキストをアレンジして、エゴグラムを活用した自己理解や、「コミュニケーション」を考えるグループワーク、さらにコンセンサスに至るプロセスを経験するワークで人間関係づくりを体験する授業を行った（実施内容は下コラム参照）。

このプログラムづくりに力を注いだ1学年担任の四関大輔先生は、アクティブラーニングによる授業にも積極的に取り組み、日頃のクラスづくりでも「みんなが誰とでも話せるようになる」ことを目指している。そのため、アクティブラーニング同様、いかに生徒同士が話をしやすい「場」を作っていくかが、教師の役割だという。



副校長
山室俊浩先生

前任校の町田総合高校（東京・都立）で、プロジェクトアドベンチャーを導入したコミュニケーション授業を実践。2015年4月より山崎高校副校長。



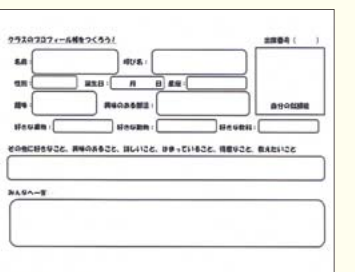
1学年担任
四関大輔先生

教科は物理。自分自身も、本来は初対面の人といきなり話すのは苦手。だからこそ、どうやったら話しやすくなるかを考え、工夫をこらす。

コラム1 自己紹介ゲーム

ダウンロード可

- 1 宿題として、事前にプロフィールシートを渡す。
- 2 じゃんけんQ&A【3分】ペアになり、勝った人がプロフィールシートに沿って質問し、負けた人が答える。答えにくい質問には答えなくてもよい。
- 3 4人グループになり自己紹介【5分】じゃんけんの相手についての紹介をする。プラスのイメージもつけるように促す。
- 4 シェアリング【2分】
- 5 8人グループになり、さらに自己紹介【10分】
- 6 グループづくり（星座、好きな教科、好きな食べ物などで、グループになりフリートーク）【5分】



コラム2 名前覚えゲーム

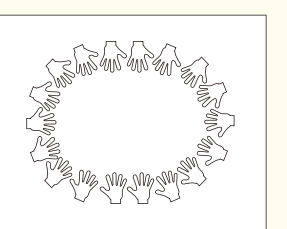
- 1 男女、班など、そのときに応じてグループをつくり、輪になる。
- 2 最初の人を決め、名前を言う。その隣から、「～の隣の～です」「～の隣の～の隣の～です」と、次々に名前をつなげていく。全員言えたら完成！

コラム3 「されてうれしいこと」「されたら嫌なこと」

<準備するもの>

模造紙を貼り合わせて大きな1枚にしたもの、さまざまな色の太いマーカー、付箋たくさん

- 1 各自、付箋に「されてうれしいこと」「されたら嫌なこと」をたくさん書きだしていく。
- 2 模造紙に自分たちの手形を輪になるように描く。
- 3 手形の輪の外側に「されたら嫌なこと」、内側に「されてうれしいこと」を貼っていく。
- 4 さらに、そこで気づいたことを、自由に書き加えていく。
- 5 みんなの約束として、クラスに掲示。
- 6 振り返りを日常化し、その都度、気づいたことをさらに加え、内容を進化させていく。



東京都の新教科「人間と社会」試行授業「人間関係をつくる」

今回のトライアルでは、50分授業を3回に分けて実施。1回目はエゴグラムを利用した自己理解。2回目はコミュニケーションにおけるさまざまな手段や手法について考え、グループで討論した。3回目は、1学年



240名が全員体育館に集まり、クラスを解体したグループに分かれ、「砂漠で遭難したら」というワークを実施。もしも砂漠で遭難した場合、生き残るために重要だと思うものを、みんなで相談して決めるというもの。それによって、異なる価値観に気づいたり、見知らぬ人といきなりコミュニケーションすることを体感した。

「1学年の最初に、『人間関係づくり』を体験することによって、10月のインターンシップや、さらにはその後の『学ぶ意味を考える』ことにつながり、今回、この試行授業に取り組みました」（山室先生）

同校では、1学年全員が地元の87事業所の協力を得てインターンシップを実施する。その際に、社会人とのかわりにはもちろんのこと、同学年の他クラスの生徒と一緒にインターンシップを体験することになる。入学間もない時期に、知らない生徒同士でコミュニケーションをとった経験もあって、新しいことへの挑戦への抵抗感が低かったという。

その後、名前覚えゲーム（コラム2）も実施。クラス全員が早い時期に顔と名前を覚え、話しやすい雰囲気にもなるという。さらに、席替えのために「コミュニケーションゲーム」で関係性をつくり上げていく。ちなみに、同校副校長・山室俊浩先生は毎月席替えをされているという。

「それだけ頻繁に行くと、生徒が席替えを苦にしなくなりません。グループが固定されることなく、次第にクラス40人がひと固まりになる。席替

生徒同士が気軽に「話し合う」雰囲気をつくっていくためには、クラス全員で取り組むグラウンドルールづくりも有効だという。そのために山室先生が活用していたのがプロジェクトアドベンチャーというアメリカで開発された体験型プログラムで実施される「ピーニング」の手法（コラム3）。冒険アドベンチャーをテーマに、他者と協同して課題を解決する中で、一人ひとりの成長を目指すプロジェクトアドベンチャーでは、「お互いを最大限に尊重し合うための約束」としてピーニングを行う。それが、クラスづくりの約束事としても役立つという。

「これをクラスの掲示板上に貼っておいて、グループ学習や話し合い、イベントなどの振り返りの際にも参考にします」

生徒同士が気軽に「話し合う」雰囲気をつくっていくためには、クラス全員で取り組むグラウンドルールづくりも有効だという。そのために山室先生が活用していたのがプロジェクトアドベンチャーというアメリカで開発された体験型プログラムで実施される「ピーニング」の手法（コラム3）。冒険アドベンチャーをテーマに、他者と協同して課題を解決する中で、一人ひとりの成長を目指すプロジェクトアドベンチャーでは、「お互いを最大限に尊重し合うための約束」としてピーニングを行う。それが、クラスづくりの約束事としても役立つという。

「新学期の最初の宿題は、プロフィールシートを書くこと（コラム1）。それをもとに、自己紹介ゲームを行います。いきなりほかの生徒に自己紹介するというと、やはり話しづらい生徒はいます。そのために、事前にカードを書いてくれば、それをもとに話ができますし、後日、このプロフィールシートを冊子にして全員に配ると、クラスにどういった仲間がいるのかわかるキッカケにもなります」（四関先生）

「新たな気づいたこと、感じたことなどをさらに記入してピーニングを進化させていくと、自分たちの成長も感じられますし、考えも深まっています」（山室先生）

「4月は教師も何かと忙しい時期です。しかし、生徒の目線に立つと、新しい学校やクラスで、隣の子どもは何を考えているのかどうしたら馴染めるのかなど、不安をたくさん抱えています」（四関先生）

「クラス全体で、「されてうれしいこと」「されたら嫌なこと」のルールづくり」

「短時間でも、どんなことに興味をもっているのかなどを聞き、人となりを

そんな生徒と同じ目線に立てれば、決のためにいろいろなアイデアも出てくるでしょう。また、教師自身のそういう生徒への接し方に感化されて、生徒は変わっていきます。究極は、スキルよりも、生徒をどれだけ思いやるか。クラスの一体感を高めていくコミュニケーションづくりのベースは、そんな教師自身の姿勢なのかもしれません」（山室先生）

リクナビ進学 Career Guidance

キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.411 2016年2月発行

■特集
第7回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2015
保護者と協働するキャリア教育へ

【第1章】 今どきの保護者たちのコミュニケーションの特徴
競争と、景気の荒波をくり抜けてきた今の保護者たちをまず知る

調査報告 PART1
1 親子コミュニケーションのギャップ
2 父親と母親の存在感
3 進路にまつわる期待と不安
4 子どもの進路選択への関わり

【第2章】 保護者と何を協働するか そのヒントを探る

調査報告 PART2
1 子どもに身につけてほしい能力とキャリア教育への期待
2 アドバイスの難しさと重要な進学情報
3 高校と家庭の役割分担の考え方

【まとめ】 保護者の理解・信頼・協力を生み出すため 学校にできる3つのアクションとは？

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています（校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送）
バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます
http://souken.shingakunet.com/career_g/ キュリアガイダンス 検索